

やお・かしわら

だいかくさん ほうそうじ
大覚山 法蔵寺

法蔵寺は、大覚山と号し、寛延元年(1748)、土佐曾我部氏の子孫、好山和尚が、この土地に土佐大守山内家の祈願寺(曹洞宗)として建立したといわれる。この地は、かつては聖徳太子が物部守屋との戦いで砦を築き、再起を図った陣屋跡と伝えられる。寺院の前の道は、太子が再起を図って信貴山に逃れる折に通った道と伝えられ、その名残として今も「大道(おおみち)」と呼ばれており、沿道には太子門・大太子口と名付けられた場所が残っており、八尾市の「歴史の道」に指定されている。境内には霊泉が湧き、所望すればウォータークーラーから飲むことができる。この霊泉は、神霊泉縁起として、『当山は古来より水が乏しく、また、豪雨の時は濁流となり憂い少なからず。第二世仁海和尚は水土を神祇に祈る事七ヶ年、ある夜、龍神が現れ和尚に



夕日の映える本堂



山門



境内から見る大阪平野

所在地：八尾市郡川 6-3
最寄駅：近鉄信貴線「信貴山口」駅東へ約 600m
見学：境内は自由
TEL：072-941-6364

山中の一ヶ所を託す。和尚は村の民と共に横井戸を掘ること二町ばかりすれども、いまだ水一滴もなし。村の民、労多くやめんとするも、和尚なお十間ほど掘る事をすすめるに、不思議なるかな大水脈にあたり、霊泉噴出すること滔々として滝の如し。これを龍神の応驗なりとして、この泉を神霊泉と名づける。』とある。また、本堂には狩野得水による壮大な龍の天井絵があり、その他、襖絵・板絵など江戸中期の貴重な文化財が多く保存されている。本尊は秘仏の聖観世音菩薩である。本堂前の「大覚寺」の扁額は好山和尚の筆によるものである。法蔵寺付近には、古墳が数多く発見されており、古代より権力者が居住には条件の良い場所であったらしいが、現在は、植木畑であり、四季とりどりの景色に風情があり、境内からの大阪平野の眺望はすばらしいものがある。(新田俊明)